TACのHP

JAたじまの取組み事例について

小西（こにし） 明彦（あきひこ）
兵庫県・JAたじま 営農生産部 副部長

※本稿は2021年１月に行われたTACパワーアップ大会での発表より構成しています

JAたじまの概要

JAたじまは、兵庫県北部に位置する但馬地域を管内としています。管内の面積は東京都とほぼ同じくらいですが、人口は15万6,500人ほどです。

主な農産物ですが、水稲ではコシヒカリが中心です。野生復帰したコウノトリが住みやすい環境づくりの一環として作られた特別栽培の「コウノトリ育むお米」や、「つちかおり米」、「ふるさと但馬米」などがあります。野菜では、関西で一番大きな産地である「たじまピーマン」や「朝倉さんしょ」、日本三大ねぎと言われている「岩津ねぎ」、高原野菜、大納言小豆などがあります。そして、畜産では但馬牛の産地でもあり、但馬牛は2019年日本農業遺産として認定を受けました。

■但馬地域の概要
- 兵庫県の北部　但馬地域（3市2町）を管内
- 県面積の約1/4（東京都の総面積に匹敵）
- 人口　156,532人（県人口の約3%）

■JAたじまの概要（令和3年3月31日現在）
- 組合員数　47,560人（うち正21,434人）
- 貯　金　3,672億
- 貸出金　516億
- 共　済　1兆0,487億
- 受託販売　59億
- 購　買　26億
- 役　員　理事　29名　監事　7名
- 職員数　746名

TACの設置と活動変遷

JAたじまでは、平成21年度よりTACが設置されました。当初５年間は各営農センターへ配置されていましたが、どうしても営農センターの現場の業務を優先してしまい、充分な担い手対応ができないという問題がありました。

そこで、平成27年度から本店配置に変更しました。また、訪問活動についてはポイント制度を導入し、成果を客観的に数値化した実績管理を開始しました。

翌年に農業者の所得増大と農業生産拡大を目指してJAの全部署が連携して取り組む体制をつくるために、専務直轄の「担い手支援センター」を設置しました。また、総合支店長を担い手担当と位置付け、毎月TACと一緒に同行訪問する活動を実施しています。

以下、右図にあげた３つの取組みについて紹介します。

①多収穫米作付拡大
⇒ JA集荷量増加と担い手農家の所得の増大

②資材セット提案
⇒ JA購買供給高増加と担い手農家のコスト低減

③LINEを活用
⇒ 営農情報配信サービスの提供

多収穫米作付拡大について

担い手農家への農地集積が進んだことで経営面積は増えましたが、同じ品目での作付けに限界がでてきています。特に当管内はコシヒカリのウェイトが９割を占めており、コシヒカリ一本では農繁期に作業が集中してしまうため、労働力の確保が困難な状況が発生したり、刈取り時期が重なることから適期刈取りが難しく、品質の低下も見られました。

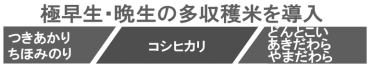
その一方で、販売先から多収性品種の米が欲しいとの要望があり、担い手農家と実需者のニーズをマッチングさせて、多収穫米の生産拡大へ取組みをはじめました。

従来のコシヒカリを中心とした栽培に加え、多収性品種である極早生の「つきあかり」「ちほみのり」、晩生の「あきだわら」「やまだわら」を作付けすることで、収量の増加と作期の分散を提案をしました。

多収穫品種への作付け誘導により、作付面積は前年より41.8ha増加しました。また、令和２年11月には担い手農家の栽培技術の向上と今後さらなる普及拡大を目的として、多収穫米技術研修大会を開催しました。

さらに、担い手農家の生産意欲向上を図るため、収量を基準とした多収穫米選手権を開催しました。最優秀賞は802kg（10a、玄米）で、上位優秀賞平均は670kg

○担い手農家へ農地集積
○たじまではコシヒカリのウェイトが9割を占める
⇒ コシヒカリ一本では農繁期に作業が集中し、労働力確保が困難。品質低下も見られる。
○実需者から多収性品種がほしいと要望がある。



（10a、玄米）となりました。

多収穫米の作付けが増えたことで、JAへの出荷量も増加しました。集荷実績は右表の通りですが、令和２年度全体で355,589袋、うち、多収穫米は25,580袋となりました。

○多収穫品種への作付け誘導（前年より41.8ha増加）
○多収穫米技術研修大会及び多収穫米選手権実施
・栽培技術の向上
・生産意欲向上と更なる普及拡大

（JA集荷量増加）

JAたじま 集荷実績	平成30年度	令和元年度	令和2年度
産米集荷数量（全体）/30kg	325,261袋	335,590袋	355,589袋
うち 多収穫米集荷数量 /30kg	3,621袋	13,561袋	25,581袋

担い手からは、「極早生品種、コシヒカリ、晩生品種を組み合わせて作付けすることで、作業を分散できるようになって、労働力が確保しやすくなった」「適期刈取りによる品質向上や、コシヒカリ以上の収量が確保できたことで所得が増大した」などの声をいただきました。また、多収穫米選手権の収量上位者は、多収穫米技術研修大会で表彰しました。なかには、「たくさん穫って受賞するぞ！」という生産者もおられ、生産意欲の向上にもつながっています。

担い手農家からの意見要望としては、「価格の維持や高値での販売」「栽培技術の指導」「品種の提案」などがあり、JAとしてもこれらの要望に応えられるよう、力を入れていきたいと思っています。

多収穫米選手権の表彰式

資材のセット提案について

現在、米価の下落と資材価格が高騰し、担い手農家の生産コスト低減が課題となっています。農薬についてはコスト面でメリットのある大型規格農薬を販売していますが、肥料は低コストの化成肥料の需要が高く、他社を利用している担い手農家が増えており、JAのシェア率が低下しています。

○米価の下落と資材価格の高騰
⇒　担い手農家の生産コスト低減が課題
○農薬についてはコスト面で大型規格の普及が拡大
肥料は低コスト化成肥料の需要が高く他社での割合が高い　⇒　JAシェア率の低下

農薬・肥料のセット企画を提案！

そこで、農薬と肥料をセットで提案し、担い手農家へさらなる価格メリットを提案しました。

まず、箱施用剤と除草剤と肥

料の４ha規格をそれぞれの品目ごとに設定し、予約単価以上のメリットとなる価格を提示しました。提案に際しては、価格メリットがわかりやすいチラシを作成し、TAC と営農相談員で個別訪問しました。また、推進の際には次年度のために意見要望もあわせて聞き取りました。

セット販売のチラシ

実績としては、29セット、面積にすると116ha分を販売し、JA の購買供給高は11,290千円となりました。

○箱施用剤・除草剤・肥料の4ha規格を設定
○セット購入による予約単価以上のメリットを提示
○チラシ作成による価格の見える化及び個別訪問推進
○次年度につなげるために意見要望調査実施

（JA購買供給高増加）

セット販売数	利用面積	購買供給高
29セット	116ha	11，290千円

担い手からは、「JA から資材をセットで購入することで、今までの予約価格よりさらに値引きされるのでありがたい」「使用する資材を集約することで注文作業がスムーズになった」との評価をいただきました。

また、要望として「もっと安くして欲しい」「セットのラインナップを増やして欲しい」「特別栽培でも対象にして欲しい」などの意見をいただいたので、次年度に向けてセットのラインナップ等の見直しを検討しています。

LINE による営農情報配信サービスについて

農作物を栽培するうえで、環境変化や病害虫発生状況等の情報は非常に有益であり、担い手農家は急な環境変化などリアルタイムの情報を求めています。担い手農家への情報提供については、従来は紙ベースの「TAC たより」が主となっていましたが、情報にタイムラグが生じることがあったり、いつも手元にあるわけではない

○有益な情報がたくさんほしい
○急な環境変化等リアルタイムな情報がほしい
○紙ベースだと持ち運んでいないと見たい時に見れない
生産者は「今・すぐ」を求めている！

従来の紙ベースのTACたよりに加えて
「LINE」を活用した情報配信サービスを提供

JA全農耕種総合対策部からのTAC公式アカウントを参考にしました

ので「見たいときに見られない」などの意見がありました。そこで、近年普及しているLINEを活用して、リアルタイムで確実な情報配信サービスを提供しました。

登録を勧めるチラシ

具体的な取組み内容としては、LINEによる情報配信サービスの導入・体制整備を実施しました。インターネットから無料でLINEアカウントを開設し、パソコンから配信できるよう体制を整えました。次に、チラシを作成して、担い手農家へ訪問した際に登録を呼びかけました。

情報源は営農生産部各課より情報を収集しています。令和３年６月からサービスを開始し、現在88名の方に登録していただいています。配信する内容は、主に水稲生育情報、ピーマンたより、多収穫米たより、ドローン実演会開催案内、病害虫の発生状況や熱中症対策などで、週に１～２回程度配信しています。

○LINEによる情報配信サービスの導入・体制整備
○チラシの作成、登録者の呼びかけ・訪問推進
○情報収集と毎週１～２回の配信

（配信状況）　R3.6月より配信開始

登録者数	配信回数
88名	61回

【主な配信内容】
○水稲生育情報
○TACたより
○ピーマンたより
○多収穫米たより
○研修会・実演会案内
○病害虫発生状況
○熱中症対策　他

実績は、なかなか数値としてあらわしにくいですが、ある担い手農家が、LINEで水稲いもち病の発生予測を見てすぐに防除をしたところ、防除した圃場としてない圃場で２～３割程度の収量の差が出たということでした。情報提供が収量確保に大きく役立った例といえます。

担い手からは、「今までのTACだよりでは、圃場で見たいときに見られなかったことがあったが、スマホだと常に持ち歩いているので、いつでもどこでも見ることができ、リアルタイムの情報が素早く届くので栽培の参考になった」「ドローンの実演会に行けなくて気になっていたが、当日のドローンの散布動画がLINEに掲載されているので、とても参考になった」などの声をいただいています。

また、意見要望として、「LINEで病害の注意情報を見て、資材店舗に買いに行ったけれども、在庫がなかった」「防除するよう注意があったが、特別栽培で使用できない剤であった」などの声をいただきました。

今後配信時の注意点や整備が必要と思っております。

今後の展開

多収穫米については、コロナ禍の影響で業務用向け等の販売情勢が厳しいですが、作期分散のメリットを活かして作付けを拡大し、担い手の所得増大とJAの集荷量のさらなる増加を目指していきます。

資材セット提案については、令和４年産向けも引き続き実施していきますが、さらなる値引き単価設定とセットラインナップを充実し、担い手農家のコスト低減とJA購買高供給増加を目指していきます。

営農情報配信サービスに関しては、４ha以上の担い手農家の登録者を200名まで増やしていきたいと思っています。また、次年度は、内部体制を見直し、他の課との連携を強化して、より有益な情報を掲載することで、担い手の経営をサポートしていきます。

全国のTACに向けて

まず１つ目は、儲かる農業の提案です。これが一番難しいJAとしての課題です。農産物のブランド化、資材コストの低減、経営改善指導など、単年度では難しいこともあるためJAとして中長期的に計画して提案していく必要があります。

２つ目に、スマート農業の推進です。特に若い担い手が一番興味を持つ内容であり、技術試験・導入、大規模機械化、最新技術情報等の情報提供を行って、若い世代とJAとの接点を作る必要があります。

３つ目は、労働力支援です。当管内は過疎化が進んでおり、人材確保が一番の課題です。作業の受委託、省力化技術指導、雇用支援、人材育成等、JAができることを見つけて積極的に提案していく必要があります。

TACは訪問が仕事です。訪問活動を通じて、担い手農家の課題を見つけて、その解決に向けてJAの総合力で取り組んでいきましょう。

全国のTACに向けて ～ JAができること ～

①儲かる農業の提案
農産物のブランド化、資材コスト低減、経営改善指導
②スマート農業の推進
技術試験・導入、大規模機械化、最新技術等情報提供
③労働力支援
作業受委託、省力化技術指導、雇用支援、人材育成

訪問活動を通じて、担い手農家が抱える課題を見つけ、
その解決に向けてJAの総合力で取り組みましょう。